

パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2008年3月1日

54号



レダ報告(二〇〇七
十二月二〇八・一)

飯野貞夫記

パンタナールは九月に入ると次第に暑さが増して、雨季となつて行きます。

今季は例年になく雨の日が多く、雨量も増しています。第一植樹園のユーカリ林も三十cm以上水に漬かっています。(写真上)と同時に園内は凄まじい勢いで雑草が伸び、藪と化し、写真では穏やかな緑に見えるが、激しい蚊の集団に襲われ続け、一本一本の植樹された木々の撮影は不可能状態であった。

トラクターで土を盛って何日もかけて造った道路も、山側の水が溢れて道路を越えて支流に流れ、何箇所も切絶されて車が通れなくなっています。



首都アスンシオンとレダ北部までをパラグアイ河で結ぶ週一回の唯一の定期便もクリスマス休暇に入る為、人と荷物で溢れて満杯でした。こちらでは、クリスマスとはいえ、猛暑の時期のパンタナール故、雪を見ることは全く無く、そりに乗ったサンタクロースのイメージは想像も出来ません。十二月二十一日午前十時、レダの空に瑞雲が輝き、素晴らしい吉兆を天は示された。

一月十一〜十六日
久しぶりに神山会長がレダ入りされた。すぐにトラクターを運転されて、背丈ほどに伸びた雑草を、トラクターで汗をびっしょりかきながら草刈をされた。また、植樹された木々の剪定をされたり、蟻に侵された樹の手当てをされたり、常に現場で先頭を切る姿はいつも変わらない。

「二〇〇八年度最初の環境セミナー」を開催

一月十九日、南北米福地開発協会で、一日環境セミナーが行われました。午前は、「温暖化対策における植樹活動の意義」として、戸石文夫事務局長（地球の緑を守る会）が担当しました。

京都議定書

近年、国連が中心となり、地球環境問題をテーマとした会議が行われてきました。私達がよく耳にするのが「京都議定書」ですが、これは、一九九七年十二月十六日京都市の国立京都国際会館で開かれた第三回気候変動枠組条約締約国会議（地球温暖化防止京都会議、COP3）で議決された議定書です。そして、京都議定書は、二〇〇五年二月一日に発効されました。世界に約束した日本の目標は、温室効果ガス排出量六％の削減でした。



日本は、京都議定書で二〇一二年までに一九九〇年比で六％の温室効果ガス削減を約束しています。しかしながら二〇〇五年度における日本の温室効果ガスの排出量は、一九九〇年比で削減どころか七・八％も上回っているため、温暖化対策をより一層強化する必要があります。

特に産業界を中心に、炭酸ガス排出が抑制されていますが、「家庭部門」やオフィスなどの「業務その他部門」における温室効果ガス排出量は、一九九〇年比で約四〇％増加しているため、対策の強化が求められています。

各機関が報告している、地球環境悪化の予測では、おおむね、このまま二酸化炭素等の温室効果ガスが排出された場合、深刻で人類にとって危機的状況となり、その破壊的速度が速まっていると報告されています。

まず歴史から知ろう、そして対策を講ずる。環境問題の歴史 環境問題の原因 環境問題の現状 植樹活動による、地球環境の改善と保全を主にすすめられました。

環境問題の歴史 十八世紀末、イギリスから始まった産業革命によって、右肩上がりに炭酸ガスの排出量が増え、今なお増加し続けています。

環境問題の原因 地球温暖化・オゾン層の破壊・酸性雨・砂漠化・海面上昇・地球温暖化による森林破壊、熱帯林減少等があります。

環境問題の現状 ヒマラヤの氷河、アフリカ・キリマンジャロ山の氷河の消滅。太平洋のツバル等の海面上昇による、国土の消滅。砂漠化は、毎年、九州と四国ほどの広さから緑地が失われています。

植樹・植林による、地球環境の改善と保全 炭酸ガスの吸収に対して、植林の役割が大きなものとなっています。産業界等の努力によって、炭酸ガスの排出を抑制することによって、限りなくゼロに近づけることは可能ですが、現状ではマナスにすることはできません。一方、植物による光合成のように、炭酸ガスを吸収し、酸素が供給されるというバランスの良い環境を作り出してくれます。

さらに、植樹活動は以下のような素晴らしい効果をもたらしてくれます。植樹による森林の再生。下草環境の変化が出てきます。微生物、菌糸類、昆虫の繁殖、動物が棲息します。森はミネラルを含んだ水の宝庫。海に出て、魚類と海藻類の成長を助けます。結果的に、酸素の供給、樹木の活用ができます。町と町の間には林と森を作る、美的環境づくり。粘り強く植樹活動を続けると、地球全体が、蘇生します。

参加者の感想

『環境問題が今、大きく問題視されていますが、ただ自分自身が理解しているかという点と実際問題よりもまだまだ、分っていない部分が多いことを感じます。現実になってみないとわからない私達ではありますが、実際にそんなことになったら生きていけない状況になってしまうわけですから、もっともっと意識を持って取り組んでいかなくてはならないということを感じました。』

会員募集中！！

南北米福地開発協会は世界最大の湿地帯
パンタナールの生態系保護と地球環境
改善のため努力しています。



パンタナールは世界最大の湿地帯で日本の本州とおなじ大きさを持っております。50種の爬虫類、650種の鳥類、80種の哺乳類が生息する貴重な生態系の宝庫です。エコリズムを通して、自然の尊さを学び、人間と自然の共生を体験します。

植樹活動の推進。特に雨の余り降らない地域へのニーム、モリンガの植林の推進。ニームは樹高20mになり、地球酸素の供給源として温暖化対策に役立ち、モリンガの葉は栄養分を豊富に含んでおり、飢餓対策になります。



毎年、夏の期間国際協力青年ボランティアを南米パラグアイのインディヒナの村に学校建設、並びに植樹活動をしています。



地球温暖化防止のため石油等の化石燃料から植物の油から取るバイオエネルギーへの転換を図るため、ジャトロファの栽培をしています。



会員の特典：

- ①パンタナール通信（月刊）が送られる。
 - ②月例研修会と講演会の案内
 - ③現地のエコツアーへの参加
- 申込は右記のメールかファックスをお願いします。

会費 月 500円（年6000円）
ファックス 044-829-2820
メール shiba@xes.co.jp

地球と人間は運命共同体 （美しい地球を守りましょう）

一日環境セミナー 御案内

日時 二〇〇八年三月二十日（春分の日）

場所 事務局前 大山ふるさと会館

参加費 二千円（昼食付き）

研修内容

午前中

『温暖化対策における植樹活動の意義』

地球の緑を守る会 理事長

高津啓洋

午後

『パンタナールの保全とレダの歩み』

南北米福地開発協会 事務総長

飯野貞夫

南北米福地開発協会 事務局

〒113-0001 神奈川県川崎市高津区

溝口三十一番十五

岩崎ビル4F

電話 〇四四一八二九一二八二一

Fax 八二九一二八二〇

会費納入 郵便口座

一〇一八 〇一七七六八〇四七一

代表 柴沼邦彦

E-MAIL office@sds-nsa.jp

ホームページ <http://www.asd-NSA.jp>